



筑波大学 日本語・日本文化研修留学生

NEWSLETTER

ニューズレター

2025



2024年9月9日 2023年度入学 日本語・日本文化研修留学生 修了式

[後列] 左から2番目以降：ヒョンドンスさん、トドロフゲオルギゲオルギエフさん、ブーグエンクアンズイさん、デブレークリスティヤンさん、ギュチュルセナさん、ギュネイアイシェセリンさん

[前列] 左から：田中祐輔先生、石田尊先生、澤田浩子先生、鈴木伸隆学類長、葛西太一先生、江口真規先生

日研生の皆さん 修了おめでとうございます



筑波大学 日本語・日本文化学類（以下、日国学類）では昨年9月に、スロベニア、ブルガリア、韓国、ベトナム、トルコから来た日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）6名の修了式を開催しました。言語や文化が異なる日本での生活の中、一年間の学業や課外活動を通じて大きな成長を遂げた修了生たち。スピーチの際に見せた清々しい笑顔が印象的でした。

日国学類では1989年以来、世界各国から日研生を受け入れています。これまでに48ヶ国、360名の修了生を輩出いたしました。今後も世界と日本の架け橋となる人材の育成に尽力してまいります。

CONTENTS

- 02 修了生に聞きました！
- 05 NEWS: 新日研生のご紹介
- 06 FOCUS: 修了生は今～山田真矢さん
- 07 日研生のひろば～あなたのご当地グルメBEST3
- 08 日本語・日本文化学類教員によるコラム

修了生に聞きました!



2023年から2024年まで、筑波大学に一年間留学しました。私の人生で最も素敵な経験でした。たくさんのことを勉強したり見たり、色々なところに行ったりしました。

その経験の中で最も印象に残っているのは、様々なサークル

2023年度日研生プログラムを修了した皆さんに「筑波大での留学生活の思い出」「今後やってみたいこと」などについて寄稿を呼び掛けたところ、5人から返信が届きました。ぜひご一読ください。

活動と成田山や国立歴史民俗博物館への研修旅行です。その研修旅行では日本の宗教や歴史についてたくさん学び、体験することができました。日本文化を勉強しているので、これはもちろん重要だと思いますが、興味深く、楽しいことでもありました。

たくさんのサークルにも入って、友達をたくさん作ったり、楽しいことをしました。そのおかげで、多くの国、特に日本の文化や習慣に実際に触れることができました。その上に、この留学は私を成長させてくれました。滞在中に、より社会的になり、自立することができたように感じています。

私が出た経験はすでに役に立っているし、将来も必ず役に立つでしょう。将来日本に戻りたいと思っているので、日本での生活や日本の社会情勢に関する経験は、きっと役に立つと思います。これらすべての理由から、私は筑波大学で勉強できたことに心から感謝しており、この留学プログラムを誰にでもお勧めしたいと思います。

デブレー クリスティヤン De Bree Kristijan
リュブリャナ大学（スロベニア）在学

つくばの皆様、ご無沙汰しております。2023年度の日研生、ヒョンです。韓国は寒い冬が終わり、春になりつつあります。もう半年が経ちましたね。日本が恋しくなります。

日本での1年は、私にもっと広い世界を見せてくれたと思います。親と離れ、異国での1年は簡単ではなかったですが、皆様のおかげで無事に生活することができました。ありがとうございます。

日本では色々な経験をすることができましたと思います。世界中の友達と出会い、交流しながら、簡単には出会えなかった様々な文化に接することができました。もちろん、日本の文化にも触れることができ、友達同士で土浦の花火大会を訪れたり、東京で観光したりもしました。友達との経験以外にも、江口先生の授業で参加した秋田県の竿灯まつりもすごくいい経験になりました。そして、大学の授業を通じて、日本語能力も前よりは伸びたと思います。

このように日本で得た経験と能力を、就職活動に使いたいと思います。この度、私は2018年から通っていた大学を今年2月に卒業しました。今は就職に必要なと思われる資格の勉強をしています。日本で就職したいと思っていますので、6月に日本の企業が参加するジョブフェアで求職をする予定です。皆様から応援、よろしくお願いします。



そして、修了レポートに関して色々ご指導くださった澤田浩子先生、バヤルバートル・マルガドさんに心より感謝申し上げます。

ヒョン ドンス Hyun Dongsoo
嘉泉大学（韓国）卒業



でしたし、東京にも近いので、都会の活気と筑波の静かな雰囲気の両方を楽しむことができました。

また、学生や教職員の皆様はとても親切で、私が困ったときにはいつも助けてくださいました。国際的な環境の中で、孤独を感じることなく、安心して学ぶことができました。この一年間を通じて、私は新しい環境に適応する力や、多様な価値観を受け入れる姿勢を身につけることができたと感じています。

この貴重な経験を今後の人生に活かし、より広い視野を持って学び続けたいと思います。筑波大学、先生方、スタッフの皆様、そして一緒に学んだ友人たちに心から感謝しています。

ブー グエン クアンズイ Vu Nguyen Quang Duy
ベトナム大学ハノイ校（ベトナム）在学

私は、日研生プログラムの6人のうちの1人に選ばれたことをとても光栄に思います。筑波大学での一年間は、新しい友人や親切な先生方に出会うことができ、今でも私の人生で最も素晴らしい思い出の一つです。筑波の自然と緑の多さがとても好き

あっという間に日本での1年が過ぎました。高校卒業以来、ずっと一度だけでも日本に行きたいと思って日本学部で勉強し始めたので、その夢がかなってすごくうれしかったです。私と一緒にトルコからの日研生セリンさんもいて、不安はあまりありませんでした。最初に日本に来たときから国に帰るときまで筑波大学の先生方やチューターや周りの人々が支えてくれました。本当に幸せな一年でした。

日本語の授業は思ったよりも難しかったですが、それらのおかげで日本語能力が上がったような気がしますし、日本や日本人についてもいろいろ勉強になりました。日本で多分一番苦労したのは食事でした。私はシーフードやポークを食べられないので日本の食事のほとんどは食べられませんでした。その代わりに日本のお菓子はたくさん食べられて、大福と饅頭（まんじゅう）はすごく好きで、トルコでも簡単に手にいれられたらと思います。

日本で行きたかったところ、見たかったことはほぼ全部できました。友達と筑波山に行ったり、東京で遊んだりして、本当にいい思い出になりました。楽しみにしていた花火大会が中止になったのは残念でしたが、今振り返ると、あの日のことを懐かしく感じます。日本での経験のおかげで、自分で生活したり旅行したりできるようになり、もっと自分のやりたいことに挑戦



できる自信ができました。もう一度日本に行って、新たな思い出を作りたいと強く思っています。

ギュチュル セナ Güçlü Sena
チャナッカレ・オンセギズ・マルト大学（トルコ）在学



2023年度の日研生のアイシェ・セリン・ギュネイです。昨年9月に地元のトルコに帰国してからは、アンカラ大学で日本文化と日本語の勉強を続けています。修了式から約半年が経ちましたが、筑波大学で過ごした一年間は今でも鮮明に記憶に残っています。

日研生としてのこの一年間で、履修した科目や修了レポートの執筆を通して多くを学び、貴重な経験を得ることができました。これらの学びや経験は非常に有益で、日本語の上達だけで

なく、日本社会への理解も深まりました。

また、筑波大学で特に印象的だったのは、多様な国々、立場、学歴を持つ留学生が多く学んでいる教育環境でした。異なる価値観や生活習慣に触れることで、視野が広がり、世界をより深く理解することができたと思います。特に、文化の違いを尊重し、異なる意見に耳を傾けることの大切さを学びました。

これらの経験は、今後の人生で直面するさまざまな状況において、必ず役立つと確信しています。特に、現代のグローバル化がますます進む中、日本と母国トルコの間接関係をはじめとする異文化交流の重要性は一層高まっています。私は、筑波大学で培った経験や学びを活かし、今後も日本とトルコの架け橋となれるよう努めていきたいと考えています。日本語や日本文化への理解をさらに深めるだけでなく、国際的な視点を持ち、多文化共生の精神を大切にしながら、自身の成長を続けていきたいです。

ギュネイ アイシェ セリン Guney Ayse Selin
アンカラ大学（トルコ）在学

NEWS : 新日研生のご紹介



2024年9月30日 日本語・日本文化研修留学生オリエンテーションの様子

[後列] 左から1番目：ソウ ジア ワイ さん、左から3番目：ラハマティヤン アミールホセイ さん [後列] 右：コプリヴィツァ オルガ さん

[前列] 左から1番目：チャン スーイン さん、左から2番目以降：江口真規先生、鈴木伸隆学類長、澤田浩子先生

2024年度には、マレーシア、セルビア、イランから新しい日研生を迎えました。それぞれどんな思いで日本に滞在しているのか、聞いてみました！

【質問】①出身国 ②趣味 ③日本に興味を持ったきっかけ ④修了レポートのテーマ ⑤日本滞在中にやりたいこと ⑥将来やりたいこと

ソウ ジア ワイ Sow Jia Wai

- ①マレーシア
- ②ダンス、語学
- ③小さい頃の「仮面ライダー」との出会い
- ④マレーシアにおける日本語学習ニーズ～国費留学生を中心とした調査～
- ⑤色々な人に出会ったり、新しいことに挑戦したりして、視野を広げること
- ⑥マレーシアと日本との連携の強化に貢献できる研究者・教育者になりたい

チャン スーイン Chan Sue Ying

- ①マレーシア
- ②自然の写真を撮ることと簡単な料理をすること
- ③文化が豊かで、特に食や祭りに魅力を感じた
- ④TikTokにおける日本語のコメントの英訳～文化的ニュアンスの保存におけるAIを活用した機械翻訳の検証～
- ⑤各地を巡り名物を食べ、さまざまな祭りを体験したい
- ⑥通訳者や語学学校の（語学）教師として働くことを考えている

コプリヴィツァ オルガ Koprivica Olga

- ①セルビア共和国
- ②ダンスとバレーボールです
- ③日本への興味はポップカルチャーから始まり、歴史や伝統文化に興味を持つようになりました
- ④日本の地域おこし～持続可能性の課題における観光の役割
- ⑤サークルのイベントにたくさん参加し、もっと様々なことを学びたいです
- ⑥日本で就職活動をし、卒業したら日本に戻りたいです

ラハマティヤン アミールホセイ

Rahmatian Amirhossein

- ①イラン・イスラム共和国
- ②散歩、音楽を聴く、たまに料理をすること
- ③日本史と日本文学、特に平安時代と戦国時代
- ④オニをめぐる日本とイランの文化
- ⑤日本には様々な場所があるので、日本の都道府県にできる限り旅行したいと思います
- ⑥イランと日本は歴史が深く、傑作も多いため、文化の架け橋になりたいと考えております

修了生は今～山田真矢さん [ベトナム出身]

このコーナーでは、日研生がその後、世界各地でどんな活動をしているのかをご紹介します。今回メッセージを寄せてくださったのは、2014年度日研生のド マック クィー ホアー（Do Mac Quy Hoa）さん。現在は日本の国籍とお名前（山田真矢さん）も取得し、公私ともに充実した日々を送っていらっしゃいます。真矢さんのライフストーリー、ぜひお読みください。



写真①2016.6：母国のハノイ国家大学外国語大学首席卒業の日

写真②2017.11：「ガラスの仮面」の紫のバラのドレス、紫のバラに溢れた葉山の式場での結婚式

写真③2025.4：現在2児のママ、フルタイム社員として毎日仕事と育児の両立に奮闘中

日本との出会い、そして日研生としての学び

「ガラスの仮面」という漫画をきっかけに、日本文化に興味を持ち、高校生の頃から日本語を学んでいました。しかし、留学前に日本を訪れたのは、ベトナムでの弁論大会最優秀賞の表彰旅行としての一週間の観光一度きりでした。日研生としての一年間の留学を通じて、日本や他の国の方々との交流だけではなく、初めて本格的に日本での生活を経験し、アルバイトや就職活動、NHKの弁論大会出場など、様々なことを体験することができました。

その一年で時間に正確な電車やバスなどの交通機関の便利さを初めて知り、アルバイトや就職活動、各地への旅行を通して、多くの人と出会い、また困った時にはたくさん助けていただき、日本人の真面目さと優しさをより実感することができました。特に、日本の四季の美しさ、病院や行政機関での丁寧な対応などが非常に印象的で、日本での生活の魅力を深く感じるようになりました。

留学する前も母国での日本食屋さんでのアルバイトを通して将来日本で働きたいと思っていましたが、上記の経験からその思いが強くなり、留学中に就職活動を行い、6社から内定をいただきました。その中の1社に就職することを決め、母国の大学を卒業後、来日して入社しました。

人生のターニングポイント

その後、2017年に留学前から母国でのアルバイト先（前述の日本食屋さん）で知り合った日本人の夫と結婚し、現在は3歳と6歳の2児の母となりました。育児と両立できる働き方を求めてIT企業へ転職し、チームの立ち上げなどを経験した後、昨年、現在の会社へと再び転職しました。また、日本での生活や就業がよりしやすくなるよう、長年の帰化手続きを経て昨年、日本国籍を取得しました。（その際名前も現在の名前に変更しました。）

今後やっていきたいこと

現在は、株式会社日本経営でWaculbaという、病院・介護福祉施設向けのeラーニングシステムのカスタマーサクセスとして、全国の医療機関や福祉介護施設の教育担当者の方々と相手に、自社システムの導入サポートや、学習の定着、教育・人材育成の支援を行っています。この仕事を通じて、日本の医療機関の組織や、人材育成・教育の分野をより良くして行く事に尽力できればと考えています。

日研生としての留学は、単なる学びの機会にとどまらず、日本での就職、生活、そして定住へとつながる大きな転機となりました。

山田真矢 Yamada Maya

「あなたの国のご当地グルメ BEST 3」

世界の国や地域には、その土地ならではの美味しい「ご当地グルメ」がたくさんあります。そこで今回は修了生や現役生に、ふるさとのおきの料理をご紹介いただきました。読者の皆さんも、もし気になる料理があれば、次の旅先で味わってみてはいかがでしょうか♪



プラフ（ピラフ）

こんにちは。お久しぶりですね。
ウズベキスタンには、豊かな歴史と文化が反映された美味しいご当地グルメがたくさんあります。特におすすめの3つを紹介します。



1つ目は「プラフ（ピラフ）」です。ウズベキスタンを代表する料理で、特に「オシュ」と呼ばれるプラフが有名です。ご飯、肉（通常は羊肉）、野菜（ニンジンや玉ねぎ）をスパイスで炒めてから煮込む料理で、香り豊かでとてもボリュームがあります。プラフは家庭料理としても人気があり、祝い事や特別な日に食べることが多いです。

2つ目は「シャシリク」です。シャシリクはウズベキスタン風の串焼きで、特に羊肉や牛肉を使ったものが一般的です。肉をスパイスやハーブでマリネしてから炭火でじっくり焼き上げることで、外は香ばしく、中はジューシーな味わいが楽しめます。パンと一緒に食べるのが一般的で、シンプルながらもとても美味しい料理です。

3つ目は「マンティ」です。マンティはウズベキスタン風の餃子のような料理で、小麦粉の皮でひき肉（羊肉や牛肉）、玉ねぎなどを包んで蒸し上げたものです。通常は酸味のあるヨーグルトやサワークリームと一緒に食べることが多いです。ふわっとした皮とジューシーな中身が絶妙で、特に寒い季節にぴったりの温かい料理です。

これらの料理は、ウズベキスタンの豊かな食文化を象徴するもので、どれも一度は試してみる価値があります。

2022年度日研生

シャホボフ ジャヴォヒル Shakhobov Javokhir



多文化のマレーシアでは、当然ながら多種多様な料理が味わえます！今回はマレーシア人の中のマレー系、中華系、インド系の料理をそれぞれ一選ご紹介します！

まずはマレーシアの国民食であるマレー系料理の「ナシ・レマ」（nasi lemak）です。ココナッツミルクで炊いたご飯が特徴で、ピーナッツ、アンチョビ、キュウリ、たまごとサンバル（sambal）という辛いソースとで完全な一品。コスパよくどこでも味わえる最高のお料理！

次は「チャー・クエイ・ティアオ」（char kuey teow）という中華系の麺料理です。中華醤油をメインの調味料に、たまご、エビ、もやしなどと一緒にかけ混ぜて炒めたライスヌードル。香ばしい香りが魅力で、味わいも抜群！

最後はバラエティーに富んでいるインド系料理の「ロティ」（roti）です。「ナン」と同様にフラットブレッドの一種で、定番の「ロティ・チャナイ」や、たまごが入った「ロティ・テュロ」、形だけではとさせる「ロティ・ティッシュ」があります。無限の選択肢から選べます！

辛いものは確かに多いけれど、きっと皆さんのお口に合う料理があるので、是非グルメ天国であるマレーシアへ食べに来てください！



ナシ・レマ（サンバル抜き）

2024年度日研生

ソウ ジア ワイ Sow Jia Wai
チャン スー イン Chan Sue Ying



シーラーズィ・サラダ



シーラーズィ・サラダ（دلّاس یزاریش）は、イランの南部にある都市シーラーズ発祥の、さっぱりとした伝統的なサラダです。このサラダは、刻んだ野菜と酸味のあるドレッシングが特徴で、特に暑い季節に人気があります。このサラダは、米料理や煮込み料理（ホレシュ）の付け合わせとしてよく食べられます。新鮮で爽やかな味わいが、重たい料理をバランスよく引き立ててくれます。

ホレシュ・ケラフ（شورخ لاخ）は、イランの西部、特にケルマーンシャー地方の伝統的な料理です。この料理は、高品質のサフラン、牛肉、くるみ、バラ水、そして細かく切ったアーモンド（لاخ ماداب）を使って作られます。リッチで香り高い味わいが特徴です。この料理は、通常サフランライス（チェロ）と一緒に提供されます。香り豊かで美しい色合いのホレシュ・ケラフは、特別な場面にぴったりの一品です。

シェレ・ザルド（هلش درز）は、イランの伝統的な甘いライスプディングで、特に宗教的な儀式や特別な日に作られます。このデザートは、米、サフラン、砂糖、ローズウォーター、そしてシナモンやナッツで飾られる、美しく香り高い一品です。この甘くて香り高いデザートは、温かくても冷たくても楽しめます。イランでは「ナザル（رنن）」として、人々に分け与える習慣もあります。

2024年度日研生

ラハマトィヤン アミールホセイン Rahmatian Amirhossein

日研究生プログラムのすばらしさ

文・金 仁和^{キム インファ}

筑波大学には、2,509名の留学生が在籍しています(2024年10月1日現在)。

留学生の所属は、大きく学群(448名)と大学院(2,061名)に分けられます。また、在籍形態により概ね、所属機関が定められた在籍期間と要件を満たすと学位が授与される正規生と、1年未満修学する短期留学生に分けられます。

日研究生は、日本政府の国費留学生として、日本語・日本文化学類に所属する短期留学生です。

学群に所属している留学生448名中、国費留学生は45名、短期留学生は188名です。この数字から、日研究生が希少なステータスであることは理解できると思われます。

留学は、とても大変な決定であり、留学中様々な問題を解決していかなければならないとても難しい前進です。これはどのステータスでの留学であっても基本同じでしょう。

しかし、国費留学生は学費と生活費などの経済的な支援があるので、学業に専念できるし、日本での安定的な生活ができます。一年間、日本語や専門分野を学修して単位が取得でき、日本での生活で日本人と交流しながら日本文化の理解が深められます。

なお、日研究生には、日研究生のための特別なカリキュラムが

提供されています。無論、他学群開設のほとんどの授業の受講も可能です。日研究生として一年間の学修内容や進行においても、修了レポートという目標があるので、計画をしっかりと組むことができます。他の短期留学生より学修内容が比較的にタイトですが、とても充実した一年間となります。

日研究生担当教員と生活チューターが日研究生の一年間をサポートし、修了レポートの指導教員と学術チューターが一年間の学修のまとめに力を添えます。共同授業、学外研修などを通して、日研究生以外の短期留学生と日本人学生との活発な交流もできます。

修了した日研究生は、日研究生としての一年間が誇らしく思うに違いないでしょう。現在在籍している日研究生、これから在籍される日研究生も日研究生としての一年間を誇らしいものにするため、頑張ってください。



筑波大学 日本語・日本文化研修留学生
ニュースレター 2025

発行日：2025年5月15日

発行元：筑波大学 日本語・日本文化学類

<https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

E-mail: nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

本紙を無断で複写・複製することを禁じます。

©Japanese Culture/University of Tsukuba